

2019 (令和元) 年度 共同利用研究・研究成果報告書

研究課題名	和文：CTA-Japan 物理研究 英文：CTA-Japan Physics Research
研究代表者	井岡 邦仁
参加研究者	中森 健之 山形大学 理学部 物理学科 井上 芳幸 理化学研究所 大平 豊 東京大学 大学院理学系研究科 森 浩二 宮崎大学 工学部 電子物理工学科 浅野 勝晃 東京大学 宇宙線研究所 チェレンコフ宇宙ガンマ線グループ 山崎 了 青山学院大学 理工学部 物理・数理学科 佐野 栄俊 名古屋大学 大学院理学研究科 天体物理学研究室 井上 進 理化学研究所 片桐 秀明 茨城大学 理学部 高エネルギー宇宙物理グループ、他、全134名
研究成果概要	<p>CTA 全体の中で CTA Japan PHYS が存在感を発揮し続けるためには (1) CTA Japan PHYS の強い分野の継続的な維持 (2) 弱い分野の補強 (3) 新たな分野の開拓、を行う必要がある。そして実際の観測が出てきたときに、世界に先駆けて CTA Japan がサイエンスを率先する体制になっていないといけな。それには戦略が必須である。CTA Japan PHYS のメンバーが集まって、限られたマンパワーの中で誰が何を行うのが最も効果的なのかをテーマを決めて集中的に議論することが重要になる。</p> <p>本研究は PHYS での集中的な議論を行い、最終的に CTA による物理全体へのインパクトを最大限にすることを目的とする。具体的に行った活動は以下である：</p> <ol style="list-style-type: none">1. CTA LINK meeting @Adelaide, Australia CTA コンソーシアムが定期的に行なっている LINK meeting において、参加研究者の一人が招待講演を行い、情報収集、議論を行った。2. CTA Japan 会議の開催 科研費基盤 S 研究会・宇宙線研究所共同利用研究会「高エネルギーガンマ線でみる極限宇宙 2019」において最近の進展を海外の人も含む一流の研究者を招待し講演をしてもらった。3. 物理学会 宇宙線・宇宙物理領域 高エネルギーγ線 物理学会に参加し、情報収集、議論を行った。4. 招待講演や市民講演会などでの発表 機会があるごとに、CTA の話をして、議論を行なっている。
整理番号	E02